

# 「おもしろ荘の子どもたち」

ストックホルムに「Junibacken (ユニバッケン)」というテーマパークがあります。リンドグレンの物語に登場する人々や場面を、空飛ぶ電車に乗って巡っていくというこのワンダーランドは、1996年6月にオープンして以来、ストックホルムに訪れる多くの子どもたち、大人たちを楽しませてきました。

をさし、「空中傘飛び降り」をしようとしている女の子：スウェーデンでは「長くつ下のピッピ」に負けないくらいの人気者。ユニバッケンという名前は、作品中でマディケンが住んでいる「六月が丘」の名前をそのままとったものです。

スウェーデンの農村の子どもたちを描いた「やかまし村の子どもたち」とは対照的に、「おもしろ荘の子どもたち」は街の子どもたちを描いた作品です。ジャーナリストの父と上品な母、お手伝いのアルバ、そして

マディケンと妹のリサベツト。隣家には大好きな男の子アッベの家族が住んでいます。クリスマスや復活祭、

ワルブルギス(春を迎えるかがり火)での出来事や、屋根から傘で飛び降りたり、エンドウ豆を鼻に押し込んだりと、次々起こる無邪気な大事件！本を手にする子どもたちは、すぐにマディケンやリサベツトと仲良しになり、その等身大のドキドキやわくわく、喜びや困難を、彼女たちと共に味わいます。「毎日が一大事」だった子どもの頃——大人にとっては、懐かしさが胸にこみあげ

てくる物語です。

さて、マディケンは実在の人物で

からの親友アン・マリー(マディケンと呼ばれていた)です。リンドグレンに喧嘩の仕方を教えたといわれるアン・マリーは、茶色い髪の美しい少女。二人は毎日のようにインディアンごっこなどをして遊んでいました。

1930年代には共に子育てをする母となり、戦争中には共に戦時検閲局で働き、年老いてからも頻繁に



ASTRID LINDGREN  
アストリッド・リンドグレン  
1907-2002

スウェーデンのスマーランド地方、ヴィンメルビーに生まれ、小さな農場で4人兄弟の長女として子ども時代を過ごす。『長くつ下のピッピ』『やかまし村の子どもたち』『名探偵カレくん』など、世界中で愛されている物語は130作品以上。2002年には、児童青少年文学賞である「アストリッド・リンドグレン記念文学賞」が創設された。

行き来をしておしゃべりを楽しみました。少女時代に二人で誓った「絶対に嘘をつかない、絶対に裏切らない、絶対にだまさない」という誓いどおり、彼女たちは80年間「友だち」でした。

リンドグレンが「マディケンは実在した」と明言したのは、1991年にアン・マリーが亡くなってから。それも、二人の間の約束でした。

※アストリッド・リンドグレン作  
石井登志子訳

「おもしろ荘の子どもたち」(岩波書店刊)

監修 齋藤惇夫

作家・児童文学者。福音館書店の専務取締役(編集責任者)として子どもの本の編集に携わり、2000年に退社、創作活動に専念。著書に『グリックの冒険』(岩波書店・日本児童文学者協会新人賞受賞)、『冒険者たち』(岩波書店・国際アンデルセン賞優良作品賞受賞)、『ガンバとカワウソの冒険』(岩波書店・野間児童文芸賞、国際アンデルセン賞優良作品賞受賞)、『哲夫の春休み』(岩波書店)などがある。

## PRESENT

リンドグレンの本をプレゼントします。詳しくはP.26をご覧ください。